

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

80

新たな供給網

11月、日中韓、ASEAN諸国など15カ国が東アジアの「地域的な包括的経済連携(RCEP)」に署名した。アジアに巨大な自由貿易圏が誕生することにより、コロナ後の経済回復へ重要な役割が期待されている。

ASEAN地域が「面」となるため、例えば日本から素材・部材をASEANに供給し、そこで部品加工、さらに中国・韓国に輸出するような場合でも特恵関税の適用を受けやすくなるメリットがある。また各国間での原産地規則の調和や貿易円滑化措置により新

たな供給網構築のチャンスが生まれる。

の流れから、陸路り、中国を中心とする「ド4・0」の中で、中越つながらるカンボジア、ミャンマー、ラオス、ベトナムの4カ国(CMLV)が有する産業集積地、成長消費市場としての巨大なポテンシャルを有する。タイは人口6億人を超えるASEAN経済圏の中心に位置し、GM S(大メコン圏)は、陸のASEANと呼ばれ、2億3000万人が暮らす巨大マーケットが存在する。今回のコロナ禍により

デジタル発展

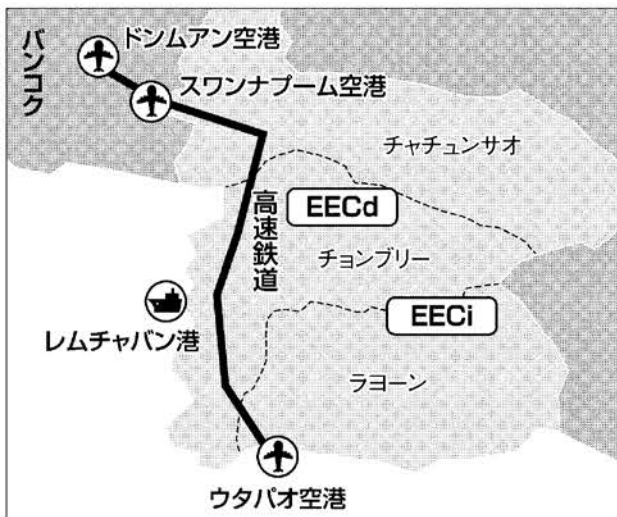
タイでは、産業構造の高度化を図る国家プロジェクト「タイラン」が存在しており、この

タイ市場の潜在力注目



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター 特任フェロー(海外動向ユニット) 宮崎 芳徳

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。米国スタンフォード大学PhD取得。工業技術院、産業技術総合研究所で、地球科学、エネルギー、科学外交などに従事。タイ国のNSTDA(科学技術開発庁)、TISTR(科学技術研究所)を経て、20年より現職。タイ在住。



東部経済回廊(EEC)

は目を見張るものがある。中国の「二帯一路」の延長上で、ファーム・エイ、アリババ、 Tencentなどの中国企業もタイで活発である。日中第三国市場協力フォーラム(北京)で、日本企業などとのタイ協力案件も議論されたところ。中小企業は構築済みである。(金曜日に掲載)